

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年6月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

『診療情報学』のもとにある診療情報管理士

堀見 忠司

高知医療センター 名誉院長、細木病院 院長

医学の進歩は、日進月歩で、次々に新しい概念・知識・技術が登場しています。その中で誕生した診療情報管理士が、医学・医療に貢献するために診療情報管理の意義と役割を明らかにし、その重要性を正しく認知するために、日本診療情報管理学会は『診療情報学』という新たな学問を編集し、医療界の新分野を占めるようになって来ました。国家資格ではありませんが、その重要性は診療情報の標準化と共通化の推進において大きなシステムに変貌していると言っても過言ではありません。

そして診療情報管理士は、医学の進歩とともに成長していますので、言葉を換えれば「医療の番人」ともいえる立場です。従って資格を習得してゴールに到着したのではなく、医療・診療の進歩とともに歩むわけで当然、生涯、個人的な研修や習熟が続けなければなりません。すなわち病歴の新たなコーディングや新たな作成が促されているがん登録やDPC(診断群分類別包括支払形式)の病名やTNM分類などはこれからの「医療の番人」として医療質の保証を見守る立場になっていくことでしょう。

一方、わが国は人類が今まで遭遇したことのない少子高齢化の社会に突入していますが、医療の方向性は大きな転換期に入っています。そして今、日本の医療は在宅医療へ大きな変換が求められ、そこには今までになかったような診療以外の医療が出現してきています。そして医師ばかりでなく、新たな職種として訪問看護師をはじめ訪問リハなど多くの医療職の方々によって院外に向かった医療が始まろうとしています。人間は高齢になると単一の疾病におかされるわけではなく、多様な疾患にさいなまれます。したがって医療が単一の専門性を追求するばかりではなく、多種多様な疾患に見舞われ始めている高齢者という人間を「総合診療」という立場から地域包括システム医療の中で診療する「総合診療医」という医師も求められるようになっていきます。また試行錯誤する中で「介護医療院」(仮称)が出現することになり、ここに診療行為に対する医師の特権が他職種と混ざり合い、医師と患者の間に立つ「特定看護師」のような医療人が求められる時代が訪れることでしょう。またその中で、医療の質を見守る診療情報管理士の知識と行動力の必要性が今まで以上に追求され、世界が注目する新たな在宅医療の構築のために、医療関係者が結集して、これからの医療の方向性を正しく導かねばならないと考えます。

